地域づくり活動NPO事業助成事業　実績報告

事業区分（01-01）

団体名	（特非） ひょうごセルフヘルプ支援センター	代表者名	代表 中田　智恵海
事業名	セルフヘルプグループ実践セミナー事業		

＜事業実施実績＞

年月日 定例は「月1回」「毎○曜日」等で記入	場所	参加者 一般 （ｽﾀｯﾌ）	活動内容 （勉強会や定例会、講演会、イベントなどを幅広に記入） ※講演会、イベント等はタイトル・講師・会場等を併記
7月28日	リードあしや オンライン	44 （4）	オンライン　セルフヘルプ体験型セミナー　第１回目
9月24日	ボランタリー活動プラザみき オンラインとリアル	55 （9）	オンライン　セルフヘルプ体験型セミナー　第２回目
11月12日	洲本市社協 オンライン	30 （3）	オンライン　セルフヘルプ体験型セミナー　第３回目
1月20日	兵庫県社協 オンライン	54 （4）	オンライン　セルフヘルプ体験型セミナー　第４回目

＜効果と成果＞

何らかの生活困難を保有して孤立する人たちが、この3年間のコロナ禍のために分かり合える仲間と出会う機会を無くし、孤立を深め、深刻な状況にあった。

この状況を打破する方策を見いだせないまま、交流会も開けず、団体を広報して孤立する当事者をお仲間につなぐ一助となるイベントも開催できていなかった2年間だったが、オンライン上であるとはいえ、孤立する人たちがつながること、地域住民のマイナーな人たちへの理解を深める意識を醸成すること、をテーマに実施できた喜びは大きかった。このことはアンケートにも記されているとおりである。

しかしながら、ホームページやちらし、口コミで広報したにも関わらず、一般市民の参加者は比較的すくなかったことは否めない。今後は地域での広報に一層の努力を必要とする、と考えている。

また、援助専門職者らが当事者を社会的弱者として援助するのではなく、生活困難を保有して一層、ちからを保有した人という認識に至るようになったことは援助の基本的な考え方に一石を投じるものとなった。

＜今後の展望＞

今回は地域の住民同士、住民と生活課題を保有する人、生活課題を保有する人同士の助け合い、支え合いを促進するように社会福祉協議会との連携が実現したが、さらにこうした繋がりを促進するように地域の自治会や民生委員などへの参加を呼びかける必要がある、と痛感している。

今後は当センターがインターネット技術を有する人材を育成することも重要である。ZOOM配信やYOUTUBE配信の方法に駆使できるようになることが必須である。また、一方で参加したいがパソコンを操作できない、という訴えが数件あり、個別に当方のパソコンを貸与して、操作方法を伝えて参加いただいた方もあった。これからはＩＴの時代が一層、加速するから、こうした人たちへの対応を考慮しなければいけない、とも痛感した。

また、県や市の社会福祉協議会が既に地域のSHGの状況を把握していることも多いことが判明したので、当センターの活動は市町村域の社会福祉協議会との協働あるいは話合いを深めつつ、進めていくことが肝要かと考える。

＜収支決算書＞

（収入）

項　　目	金　額（円）
地域づくり活動NPO事業助成金	２８０，０００
自己資金	７９，３７８
合計	３５９，３７８

（支出）

区分	項　　目	金　額（円）	左のうち 助成対象金（円）
直接経費	人件費	１２６，０００	７０，０００
	謝金	１５４，０００	１５０，０００
	旅費交通費	６０，４２０	６０，０００
	その他（会場費等）	１３，９００	０
	小　　計	３５４，３２０	２８０，０００
間接経費（一般管理費）		５，０５８	０
合　　計		３５９，３７８	２８０，０００